

「ともに生きる～心のとびらをあげよう～」のご紹介

この冊子は、日常のちょっとした場面で感じる「もやもや」や「しんどさ」について取りあげ、身近な場面での生きづらさについてふり返り、気づき、考える内容になっています。また、同和問題や障害者の人権など個別の人権について、当事者インタビューや堺市人権意識調査結果を交え、わかりやすく解説しています。さらに、各ページのQRコードからその学びを深めていただけるよう構成されています。

同和問題から人権を考えるページでは、同和地域に住む若い人の言葉から、「自分の住所が言えない」「出身中学校が言えない」など自分のことが言えないことや、「結婚に反対されたらどうしよう」という不安など、今もある生きづらさについて掲載しています。



人権の問題はすぐに答えの出るものではないかもしれませんが、この冊子を使って、家庭や学校、職場や地域みなさんで、自分のことや身近にいる人びとのことをぜひ考えてみてください。

冊子は当館で配布しているほか堺市ホームページでもご覧いただけます。

堺市 ともに生きる

検索

「第1回多文化共生楽習会」を開催

堺市では、国際的な平和貢献活動を行った団体を表彰する「自由都市・堺 平和貢献賞」を創設しています。

平成29(2017)年10月26日に大阪府立大学と共同で開催した「第1回多文化共生楽習会」では、「国際協力・平和構築は、小さな個人の一步からー被爆地・ヒロシマから伝えるー」と題して、第5回自由都市・堺 平和貢献賞受賞者の特定非営利活動法人ANT-Hiroshima理事長 渡部朋子さんにご講演いただきました。

当時の写真や被爆者へのインタビュー映像を交えながら、原子爆弾の投下が広島、長崎にもたらした熱線、爆風、放射線による悲惨な被害の状況についてお話しいただきました。また、ANT-Hiroshimaの国際協力、平和文化交流の活動内容についてのお話もあり、市民や学生が、戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶとともに、国際的な視点でさまざまな人権に関する認識を深めることができました。アンケートでは、「戦争の悲惨さを改めて強く感じた」、「自分が何をできるかを考えさせられた」という記載を多くいただきました。

今後も堺市では、全ての人々が互いに文化や習慣のちがいを認め合う多文化共生社会を実現するため、さまざまな取組を行ってまいります。

